

# 本邦における細胞診 / HPV検査併用子宮頸がん検診実施状況

細胞診・HPV併用検診実施行政比較表

県市町	鳥根県(20市町実施/全21市町)※1 ※2						金沢市(石川県)				岡崎市(愛知県)		志木市(埼玉県)		鳴門市(徳島県)	東御市(長野県)		佐賀市(佐賀県)				
発起人または発起組織	岩成 治先生(鳥根県立中央病院)						井上 正樹先生(金沢大学医学部産婦人科教室)				岡崎市医師会		今野 良先生(自治医科大学付属大宮医療センター)		鎌田 正晴先生(健康保険鳴門病院)	江夏 亜希子先生(四季レディースCL)		佐賀市医師会				
開始年度	平成18		平成19		平成20		平成21		平成22		平成16		平成17		平成18		平成21		平成22		平成23	
受診方法	個別	集団	集団	個別	個別	個別	個別	個別	個別	個別	個別	個別	集団	個別		個別		個別	集団	個別	集団	
対象者	20歳以上全女性		20歳以上全女性				30～60歳全女性		20～60歳偶数年齢女性		20歳～49歳の希望者		20歳以上の希望者		無料クーポン券対象者の30・35・40歳の希望者		無料クーポン券対象者の20・25・30・35・40・45・50・5・60・65歳の希望者		30歳～49歳の希望者と無料クーポン券対象者の20・25歳の希望者			
個人負担	細胞診	1,500	800	800	1,500	2,000	2,000	400	400	400	400	2,300	1,300	700		1,300		1,500		1,300	500	
	HPV	—	—	700	1,000	1,000	1,000	600	600	600	600	1,500	1,500	5,250		1,000		—		1,000	1,000	
	合計	1,500	800	1,500	2,500	3,000	3,000	1,000	1,000	1,000	1,000	3,800	2,800	5,950		2,300		1,500		2,300	1,500	
細胞診(-)・HPV(-)	2年に1回		3年に1回				2年に1回		2年に1回		2年に1回		2年に1回		2年に1回		3年に1回		3年に1回		3年に1回	
細胞診検査	通常細胞診						通常細胞診				通常細胞診		通常細胞診		通常細胞診		通常細胞診		通常細胞診		通常細胞診	
HPV検査	HPV DNA「キアゲン」HC II(キアゲン)						HPV DNA「キアゲン」HC II(キアゲン)				HPV DNA「キアゲン」HC II(キアゲン)		HPV DNA「キアゲン」HC II(キアゲン)		HPV DNA「キアゲン」HC II(キアゲン)		HPV DNA「キアゲン」HC II(キアゲン)		HPV DNA「キアゲン」HC II(キアゲン)		アンプリアHPV(ロシュ・ダイアグノスティクス)	

※1 鳥根県20市町(松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市、雲南市、東出雲市、奥出雲市、飯南町、斐川町、川本町、美郷町、邑南町、吉賀町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町)

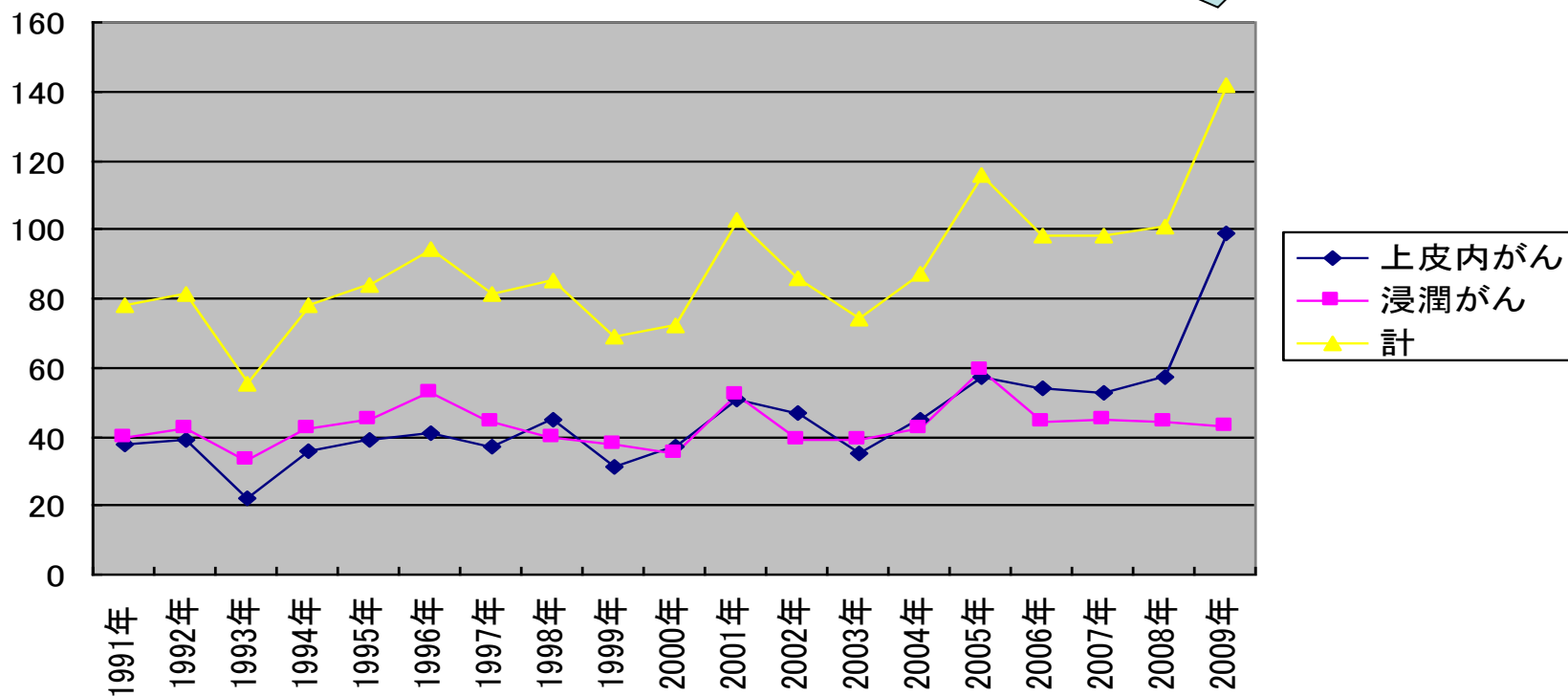
※2 鳥根県津和野町は、検診受診医療機関がなく、僻地により集団検診も出来ないため。

# 島根県における細胞診 / HPV検査併用検診

島根県がん登録1991年～2009年（岩成）

細胞診・HPV検査併用8市21町→上皮内がん1.5倍

上皮内がんと浸潤がんの推移



1) CIN2+発見率2.2倍 2)助成金30%減 3)若年層の受診率向上1.5倍

# 栃木県小山地区HPV-DNA併用検診モデル事業

## 設立目的

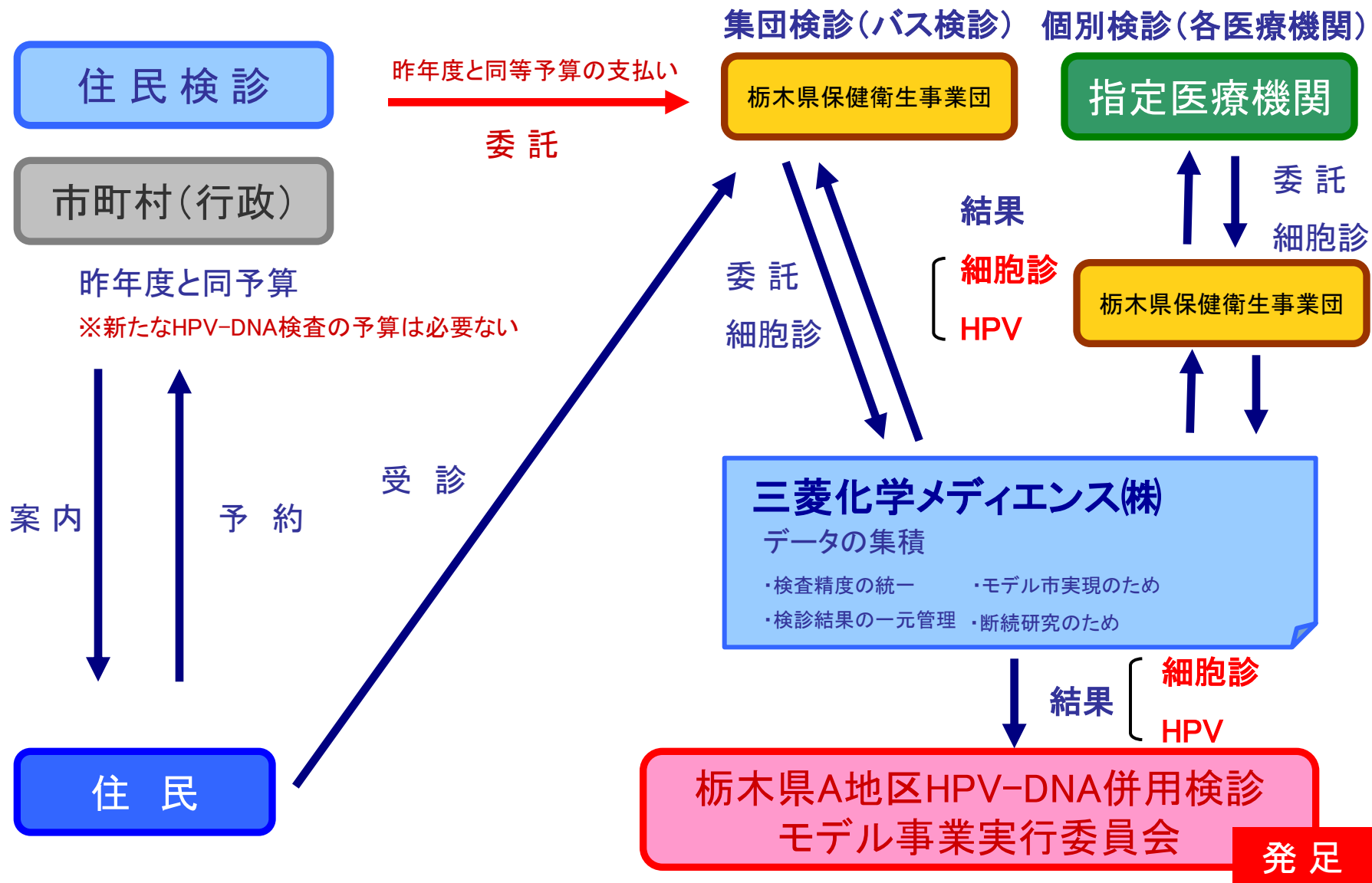
HPV-DNA検査と細胞診併用検診による精度の高いがん検診を導入し、子宮頸がん前がん病変、初期病変の発見率を上げ、また検診受診率の向上をはかり、ひいては子宮頸がんの征圧を目指す

## 目 標

- 精度が高く費用対効果にすぐれた子宮頸がん検診（HPV-DNA検査＋細胞診併用）を確立する
- 子宮頸がん検診の受診率向上（50%以上）を目指す
- HPV-DNA検査＋細胞診併用検診の全国普及の礎とする

# 栃木県小山地区

## HPV-DNA併用検診モデル事業スキーム(2年間)



# 栃木県小山地区モデル事業の特長

## 特長1

全国初 集団検診も含めての試み

## 特長2

全国初 液状細胞診の導入

## 特長3

官民共同事業

## 特長4

HPV-DNA併用検診の有用性の検証事業

- ・前がん病変発見率、不適正検体率、検診受診率、等従来の細胞診単独検診と比較
- ・HPVワクチンの効果の検証（他地域との共同）

# HPV-DNA併用検診の費用対効果

## － 試算の前提 －

1. 検診受診者：1000人

（内、毎回受診者800人、新規受診者200人）

2. HPV陽性率：10%

3. 検診費用

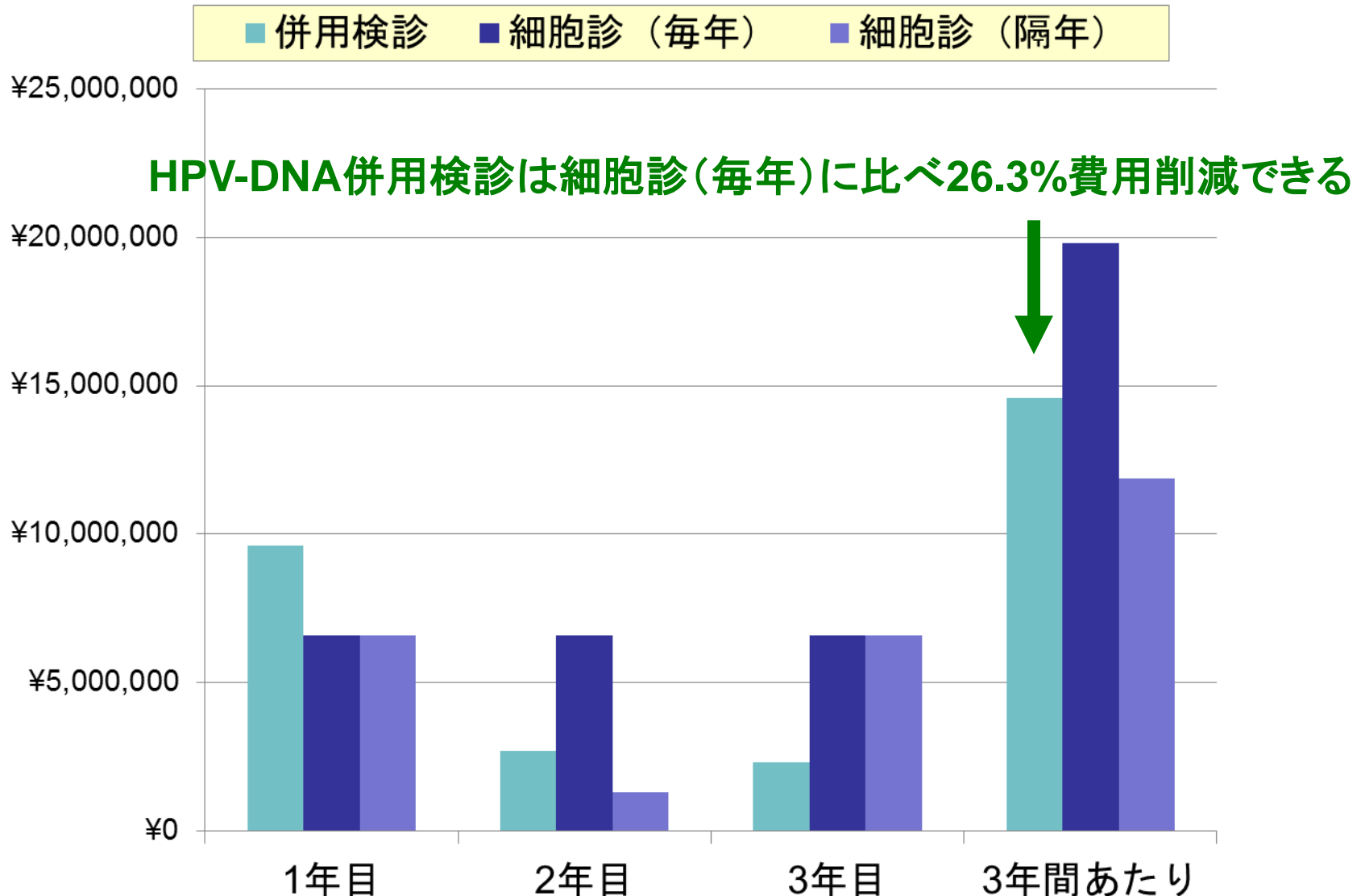
細胞診のみ：6,600円

HPV併用検診：9,600円（HPV検査：3,000円）

4. 細胞診のみ（隔年）、細胞診のみ（毎年）および

細胞診とHPV検査併用の場合を試算

# HPV-DNA併用検診の費用対効果 —まとめ—



# 子宮頸がん予防法案 一骨子一

## 1. 子宮頸がん予防ワクチン接種の実施の推進

国・地方公共団体による実施の推進・実施体制の整備

⋮

国庫補助

- ・特定年齢への一斉接種は全部補助
- ・それ以外については一部補助可能

**公明党が中心に推進！**

## 2. 子宮頸がん予防検診(細胞診・HPV検査)の実施の推進

国・地方公共団体による実施の推進・実施体制の整備

⋮

市区町村に対する国庫補助等

- ・市区町村が実施するもので特に必要な年齢での検診については全部補助
- ・それ以外については必要な財政上の措置

## 3. 前がん病変に係る適切な医療の提供の実施の推進

\* 必要経費: 平年度約550億円